

緊急情報

大豆農事メモ号外

令和元年8月1日
JA松任、JA白山、JAのいち

☆☆向こう1か月の天候の見通し（7月27日～8月26日） 北陸地方☆☆

- 太平洋高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 平年に比べ、気温は高く、日照時間は多く、降水量は少ないでしょう。
- 平均気温は、高い確率50%
降水量は、少ない確率50%
日照時間は、多い確率50%です。

新潟地方気象台 令和元年7月25日発表

梅雨が明けました！ 今後は晴天が続く予報です。
排水対策から「**うね間かん水による干ばつ対策**」に切り替えましょう！！

1. うね間かん水の実施で根・茎・葉ともに元気に！

開花期～子実肥大期（7月下旬～8月下旬）は最も水分を必要とする時期です！！

☆うね間かん水実施のポイント☆

- ① 開花期以降、3日以上晴天日が続いたら、土の乾き具合に応じて、うね間かん水を実施！
- ② かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょう。
- ③ うね間や額縁排水溝と排水口の連結を確認し、手直しを忘れずに行いましょう。



葉が巻いてからでは遅い！！

干ばつによる大豆への影響は・・・？

- 葉の裏返りや落花・落莢（らっきょう）などが目立つ。
- 根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい。
特に大豆は吸収窒素量の5割程度を根粒により空気中の窒素を固定して利用しているが、根粒は乾燥に著しく弱く、わずかな干ばつでも窒素固定は低下してしまう。
⇒これを避ける対策として、うね間かん水は非常に重要です。

2. 防除の徹底で収量・品質アップ！

1 ハダニの多発生に注意！

梅雨明け後、好天が続く、ハダニが散見されています。発生が拡大する前に、発生ほ場では早めに随時防除を実施してください。（基幹防除の農薬では、ハダニを抑えられません。）

発生ほ場（初発）



↓発生ほ場は、ただちに下記を散布してください。

薬剤名	希釈倍数 (10a 使用液量)	使用回数	備考
ダニトロンフロアブル	1000～2000倍 (150～300 ㍓/10a)	1回	収穫7日前まで
ニツソラン水和剤	2000～3000倍 (100～300 ㍓/10a)	2回以内	収穫7日前まで

発生ほ場（坪状に枯れる）



2 ウコンノメイガの発生に注意！

今後、ウコンノメイガの葉巻、食害に注意が必要です。早期に随時防除を実施し、被害を防ぎましょう。



幼虫に被害された大豆の葉（葉巻）

☆ウコンノメイガ被害の特徴

7月上旬頃から大豆の葉に産卵し、ふ化した幼虫が大豆の葉を巻き、内側の葉を食害する。食害した後は別の葉に移動し、加害を繰り返す。

葉巻を広げた時の幼虫



幼虫の葉巻は、8月上旬から増加し、9月上旬頃まで続きます。被害が大きいと減収につながるため、↓早期に発見し、下記を散布してください。

薬剤名	10a あたり使用量	使用回数
プレバソンフロアブル5	100～300L 〔希釈倍数：4000倍薬量25～75ml〕	2回以内 (収穫7日前まで)
サイアノックス粉剤	4kg	2回以内 (収穫7日前まで)

- ① 防除の目安：大豆1茎あたり平均葉巻数6～8枚以上
- ② ほ場内で部分的に被害がある場合、部分防除も可能→散布面積を大きめに散布
- ③ 成虫は、生育が旺盛なほ場に産卵する傾向がある。
- ④ 被害葉の割合が80%以上になるとくず粒の増加や小粒化により50%減収となったケースもある。